

別添

意見書

意見提出元	札幌テレビ放送株式会社
-------	-------------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望（2015年ごろや2020年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど）	先端的ワイヤレスブロードバンド環境整備は、サービスの多様化によって国民の生活をより豊かにするために重要なものである。サービスの高度化に併せて扱う伝送容量も増大が予想されますので今後は伝送技術の効率化を検討するなど周波数の有効利用に貢献する研究開発を更に促進すべきである。
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題（周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備）	周波数の再編に関して放送事業者は第4世代携帯電話の導入を可能とするために 3.4～3.6GHz 帯で使用している固定局等を別のマイクロ波帯へ移行する計画を実施している。今後、新規に計画される方式による事業は周波数アクションプランに基づき 3.4～3.6GHz 帯の周波数を主として進められるべきである。
(3) 関連する国内外の動向と課題	テレビのアナログ放送終了に伴い再編される 730～770MHz 帯の利用に関しては情報通信審議会・情報通信技術分科会の平成 19 年の答申により携帯電話などの移動通信に割当ての方針となっています。これに基づき 2012 年 7 月以降、速やかに活用すべきである。
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	世界最先端のワイヤレスブロードバンド環境を実現することで豊かな国民生活に貢献する方向性に賛成する。高度情報化社会では、携帯電話やモバイル端末は勿論、「放送」も重要な役割を担う。放送番組を制作するためには FPU や特定ラジオマイクなどの素材伝送システムが欠かせない要素であり、我々は視聴者に高画質な番組を提供するためこのシステムのHD化を推進しその充実を図っているところである。放送事業者は、周波数帯の伝送特性を有効に生かして様々な周波数帯の素材伝送システムを活用している。特に 800MHz 帯 FPU は都市部での見通し外伝送や移動体からの伝送に適しておりスポーツ中継をはじめ情報番組での地域密着情報の中継、報道中継にとって重要なシステムである。現状SDTV画質程度の伝送容量（方式）であるが、早急にHDTV画質での伝送が可能となるように技術開発の促進と普及にむけた環境の整備を要望する。